

千葉県

定数：13名

立候補者数：11名



氏名 松田 徹

都道府県士会 千葉県

年齢 49

勤務先名称 亀田リハビリテーション病院



氏名 加辺 憲人

都道府県士会 千葉県

年齢 45

勤務先名称 船橋市立リハビリテーション病院

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

<日本理学療法士協会活動歴>
 2019年～2023年 1億円プロジェクト委員会委員
 2020年～2021年 代議員
 <都道府県理学療法士会活動歴>
 2008年～学術企画部長
 2012年～学術局担当理事
 2016年 第21回千葉県理学療法士学会準備委員長
 2018年～学術局担当理事、養成校ネットワーク推進委員会委員長
 2021年～事務局次長
 2022年 第28回千葉県理学療法士学術大会大会長
 2023年～事務局長

<立候補の趣旨>

亀田リハビリテーション病の松田と申します。
 現在千葉県理学療法士会の事務局長を拝命しております。
 新人入会率低下、休会者・退会者増加によるPT協会の組織率低下は
 協会としても、県士会としても喫緊の課題です。
 今後も、組織力強化による理学療法士の地位の維・向上と、
 後輩理学療法士のための職域拡大のために、
 微力ながら尽力させて頂きたく、この度代議員に立候補させていただきました。

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

2014年 日本理学療法士協会研修施設認定基準助言グループ
 2016年 日本理学療法士協会 臨床実習教育手引き改定特別委員会
 2017年 第1回千葉県理学療法士会 代議員
 2018年 ガイドライン・用語策定委員会脳卒中システマティックレビュー班班員
 2018年 第2回千葉県理学療法士会 代議員
 2019年 千葉県理学療法士会 東葛南部ブロック 副ブロック長
 2019年 日本理学療法士協会 職能局
 2023年 日本理学療法士協会 公衆衛生等理学療法業務構築・検討部会
 日本理学療法士学会連合 診療報酬に係るエビデンス構築委員会

船橋市立リハビリテーション病院の加辺憲人です。皆様の未来像はどのようなものでしょうか。時代の変化に対応して、ご自身も大切な方も含めてより良い生活ができていますか。理学療法士の仕事に誇りとやりがいを感じ、活力を得て、いきいきとしている状態を想像できたでしょうか。人口減少の局面を迎える日本において、理学療法士は日本国民の全世代の健康寿命の延伸に寄与できる可能性があり、いきいきと活躍できると信じています。ただし活躍の場を拡大するには個々の力と職能団体としての組織力の両輪が必要ですが、組織への帰属意識には課題があるのが現状です。多様性の時代だからこそ、一人ひとりとのつながりを大切に理学療法士であり、職能団体でありたいと考えています。今一度、職能団体としての活動を各都道府県士会から提案をしていくためにも、日本理学療法士協会の方針を代議員の一人として確認をしていきたいと思っています。現場の皆様思いをつなげる役割として立候補をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。



氏名 藤井 顕

都道府県士会 千葉県

年齢 60

勤務先名称 藤リハビリテーション学院



氏名 藤川 孝彦

都道府県士会 千葉県

年齢 56

勤務先名称 国際医療福祉専門学校

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

平成12年度～現在 千葉県理学療法士会理事
 平成25年度～現在 千葉県理学療法士会表彰委員会委員長
 平成27年度～現在 千葉県理学療法士会理学療法士講習会推進委員会委員長
 平成29年度～令和5年6月 千葉県理学療法士会学術局長
 平成22年度から現在 日本理学療法士協会代議員
 令和3年度から現在 日本理学療法士協会表彰委員会委員

理学療法士の資質の向上、専門分野における職能的水準の引き上げ、自発的な生涯学習が進む一方で、多様化するニーズに応えうる理学療法士の活躍が求められており、期待される理学療法士の発展と社会的地位向上のため、そして、これからの理学療法士として活躍される会員のためにも、代議員の1人としてできることを目指し、努めてまいりたいと考えております。

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

2012 ～ 2013 千葉県理学療法士会 事務局総務部部长
 2013 ～ 2023 千葉県理学療法士会 理事
 2016 ～ 日本理学療法士協会 代議員

養成校教員として20年になります。
 学生は、目的なく入学し、リハマインドの低い学生も増えているのは時代の趨勢とも実感しています。
 一方、教育のフィールドにおいて、理学療法士の魅力、期待度、今後の展望を発信し続けています。
 そのためには理学療法士の存在意義を国民に感じていただけるよう、理学療法士の必要性を理解してもらい、職域の拡大と保護、啓発を行っていく必要があると考えます。
 今後は理学療法養成教育の見直しにとどまらず、卒後教育の充実が求められていると考えます。
 これらには協会と士会の繋がりが密になる組織体制が必要である。
 その一助となればと微力ながら代議員として立候補します。



氏名 薄 直宏

都道府県士会 千葉県

年齢 51

勤務先名称 東京女子医科大学附属八千代医療センター



氏名 大住 崇之

都道府県士会 千葉県

年齢 45

勤務先名称 けやきトータルクリニック

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

平成23年6月～現在 (一社)千葉県理学療法士会 理事
 平成25年2月 (一社)千葉県理学療法士会 県士会学会会長
 平成25年6月～現在 (一社)千葉県理学療法士会 副会長
 平成25年12月～現在 日本理学療法教育学会 運営幹事～理事
 平成26年度～現在 (公社)日本理学療法士協会代議員

今回、代議員に立候補した薄(うすき)直宏と申します。私は、現在千葉県理学療法士会の副会長として分かりやすい士会活動を会員に周知すべく活動しております。また日本理学療法教育学会の理事として臨床と教育現場の架け橋となるべく理事会などで発言しております。

現在日本理学療法士協会では生涯学習プログラムで卒後の教育体制の確立、臨床実習指導者講習会で実習指導者の育成と大きな2つの柱で理学療法士の質向上を目指しております。

新卒理学療法士が年間1万人以上となり量的な拡大に対し質を如何に担保するのか、若い理学療法士をどのように育てていくのか、また臨床実習で学生の学びをどの様に伸ばしていくのか教育の大きな岐路に立っています。

生涯学習プログラムでは、各施設での教育体制を考えどの様に育てるのかを改めて考える機会になると思います。また臨床実習指導者の育成では今までの指導法を振り返り、学生や時代の流れに即した教授法を取り入れていく必要があります。

このような教育の変革時に私は、千葉県理学療法士会会員に対し協会に所属している意義を伝えると共に、様々な情報を分かりやすく提供していきます。また会員の皆様と一緒にこの重要な2つの柱を實踐し、適切に行われているかについても評価していきたいと考えております。是非、皆様の感じている現制度についてディスカッションしていければと考えております。

まだまだ若輩者ですが私の強みである行動力で会員満足度を向上できるように頑張っていく所存で御座います。宜しくお願いいたします。

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

【協会・士会役員歴】
 千葉県理学療法士会 理事
 地域理学療法学会 評議員

【立候補の趣旨】
 現在、千葉県理学療法士会理事として士会運営に関わっており、日本理学療法士協会の運営についても代議員として関わる事ができればと考え、立候補いたしました。

現職場では主に訪問リハビリテーションを行っており、職場のある松戸市では地域ケア会議への参加など、行政とも多く協働しております。

代議員となる事ができましたら、千葉県の代表として、在宅や地域での理学療法士の活動についての提案や、協会の取り組みに対しての意見や協力をしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



氏名 田中 康之

都道府県士会 千葉県

年齢 59

勤務先名称 千葉県千葉リハビリテーションセンター



氏名 高橋 聡

都道府県士会 千葉県

年齢 49

勤務先名称 特別養護老人ホームやすらぎ園

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

【主な協会・士会役員歴】

- （一社）千葉県理学療法士会：会長（平成25年～現在6期目）、職能局理事（平成23年～平成25年）、第20回千葉県理学療法士学会会長
- （公社）日本理学療法士協会：代議員（平成26年～）、携わった委員会：災害時支援システム検討委員会、オリ・パラ対策本部委員、予防理学療法検討特別委員、職能業務執行理事委員、グラウンドデザイン検討委員会。
- （一社）日本地域理学療法学会：理事（令和3年～）第2回・第4回日本地域理学療法学会会長
- 第43回日本理学療法士協会関東甲信越ブロック学会会長（令和6年10月）

【立候補趣旨】

私は千葉県理学療法士会会長として、現在6期目を務めさせていただいています。この間、県内では医師会、歯科医師会、看護協会等の職能団体、県・市町村、首長や議員の方々からの千葉県士会への注目そして存在感の高まりを肌で感じております。さらに各種行政計画策定等における発言力・影響力も益々大きくなっていると実感しています。

一方で足元を見ると有資格者の協会加入率の低下が喫緊の課題となっています。職能団体として対外的な力は着けてきましたが、今その力の根幹が揺らいできている状態です。県士会長を務めていると「会員になるメリットは何か？」と訊かれることが多くあります。学術やつながり、保険等様々なメリットはあるのですが、本来は職能団体である以上、会員が多く在籍することで対外的な発言力が大きくなり、私たちの処遇改善につながることで会員になる最大のメリットであると理解しています。

加入率低下は、やがては自らの力を落とし、処遇を落とし込むことにつながるものであり、これは急増する若い世代の理学療法士にとって、深刻な事態となってまいります。この不安を払拭するためにはやはり協会の力の強化が必要なのです。

そこで、県士会の代表の一人として県士会の声を伝え、より良い協会づくりに寄与するために、改めて代議員選に立候補させていただきました。よろしく願いいたします。

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

- | | | |
|-----------|---------------|--------------|
| 平成20年～24年 | （一社）千葉県理学療法士会 | 理学療法週間推進部 部員 |
| 平成24年～27年 | （一社）千葉県理学療法士会 | 理学療法週間推進部 部長 |
| 平成27年～現在 | （一社）千葉県理学療法士会 | 理事 |
| 平成29年～現在 | （一社）千葉県理学療法士会 | 副会長 |
| 平成28年～現在 | （公社）日本理学療法士協会 | 代議員 |
| 令和3年～現在 | （一社）千葉県理学療法士会 | 地域活動支援本部 本部長 |

私は、県士会理事を5期9年目、副会長を4期7年目、協会代議員を4期務めてまいりました。

県士会に関わらせていただいてから16年になりますが、その間COVID-19の影響や社会情勢の変化により社会における理学療法士を取り巻く環境や立場も随分変わりました。

私達理学療法士は、この目まぐるしく変わる時代の流れの中でも社会貢献、存在意義・価値を示していかなければと思っております。

そのためには、質の向上、職域の確保や拡大、更には組織力が必須となってきくと思っております。

また、本会は会員割合も若い会員が非常に多い団体です。その若い会員が活躍できる理学療法士の未来のためにも、代議員になった暁には、強い職能・学術団体を作り、会員の皆様が社会で活躍していけるために尽力して参ります。



氏名 河野 健一

都道府県士会 千葉県

年齢 41

勤務先名称 国際医療福祉大学成田保健医療学部



氏名 福田 大輝

都道府県士会 千葉県

年齢 37

勤務先名称 いんざい整形外科クリニック

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

【協会・士会活動歴】

- H 2 9 日本理学療法士協会 職能に資するエビデンス研究 糖尿病足病変・糖尿病腎症患者における理学療法士の関わりの実態調査報告書執筆
- H 3 0 日本理学療法士協会 非外傷性下肢切断予防研修会事業責任者
- H 3 1 千葉県理学療法士会印旛ブロック学術局（現在まで）
- R 1 理学療法学 査読委員
- R 1 日本糖尿病理学療法学会理事、研究推進委員会委員長（現在まで）
- R 3 理学療法学・Physical Therapy Research (PTR) 編集委員（現在まで）
- R 5 第9回日本糖尿病理学療法学会学術大会副大会長

【立候補の趣旨】

「理学療法士の卒前・卒後の養成課程」、「生涯学習制度」、「職能に資するエビデンスと診療報酬の獲得」など理学療法士協会が担う役割と責務は大変重大です。理学療法士協会としての組織及び役員個々がそれらの業務に対して適切な能力とともに責任を持って執行しているかを、現在私がおかれている立場と担っている協会関係業務を通して客観的に評価し、ならびに意見し、協会員ならびに国民にとって適切な会の運営となるように代議員としての職責を果たす所存です。

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

- 2 0 1 9 年～現在 千葉県理学療法士会 公益事業局 障がい者スポーツ支援部 部長
- 2 0 1 9 年～現在 千葉県理学療法士会 代議員
- 2 0 2 2 年～現在 日本理学療法士協会 代議員

県士会代議員・役員を3期、協会代議員を1期務めてまいりました。これまでの活動経験を活かし、引き続き協会・県士会の発展に寄与できればと考え立候補させていただきました。微力ではございますが、よろしくお願い申し上げます。



氏名 小川 明宏

都道府県士会 千葉県

年齢 45

勤務先名称 東邦大学医療センター佐倉病院

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

2004年6月～2006年3月日本理学療法士協会 広報部員
2015年6月～2017年6月千葉県理学療法士会 職能局 医療保険部長
2017年7月～現在 千葉県理学療法士会 理事

この度、日本理学療法士協会代議員に立候補いたしました小川明宏と申します。
現在、千葉県士会において理事・公益事業局担当副会長として、
県士会活動に関わらせて頂く中で、
理学療法士の対象や職域は確実に拡大していると感じております。
その一方で、協会と士会がどのように連携して行くか、
更には分科会学会との関りなど、職域や活動が広がっていくと同時に、
多くの課題があることを実感しております。
これから10年・20年、さらにその先まで会員が理学療法士としての専門性を発揮し、
自身の仕事に誇りを持てるような職業であり続けるには、
私たち中堅世代で県士会運営に関わっている人間が、
協会にしっかりとした提言を行っていく必要があると考えております。
皆さま、どうぞよろしくお願い申し上げます。